



カケハシ・プロジェクト（米国） イノウエ・プログラム派遣（上智大学）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

イノウエ・プログラムは、日米両国の大学生による相互交流プログラムであり、今回は上智大学の学生ら10名を、日米に対する理解促進を目的として、米国カリフォルニア州へ派遣しました。米国滞在中は、現地総領事館への訪問や、日系施設視察、学生との交流を通じて、日米関係や両国の関係について学び、日米両国の友好・信頼関係を深めました。異なる文化や習慣に触れながら学びや気づきを得るとともに、交流先で出会う人々に向けて日本の魅力を伝えました。

【参加者】上智大学の学生9名及び大学関係者1名 合計10名

【訪問地】米国 カリフォルニア州ロサンゼルス、クレアモント、インディペンデンス

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2月17日（月曜日） 【渡航前オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等

■ 派遣プログラム：

3月12日（水曜日） 羽田空港より出国、ロサンゼルス国際空港より米国入国

【学校交流】ロヨラ・メリーマウント大学

3月13日（木曜日） 【視察】ロサンゼルス日本文化センター

【表敬訪問】在ロサンゼルス日本国総領事館 首席領事 青島 尚重 氏

【視察】ジャパン・ハウス ロサンゼルス

3月14日（金曜日） 【学校交流】クレアモント・カレッジズ

3月15日（土曜日） 【視察】マンザナー国立史跡

3月16日（日曜日） 【視察】リトル・トーキョー

【ワークショップ】報告会準備（プログラムの学びや気づきのまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

3月17日（月曜日） 【学校交流】ロヨラ・メリーマウント大学

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

3月18日（火曜日） ロサンゼルス国際空港より出国

3月19日（水曜日） 羽田空港より入国

2. 記録写真



2025 年 3 月 12 日【学校交流】
ロヨラ・メリーマウント大学



2025 年 3 月 13 日【視察】
ロサンゼルス日本文化センター



2025 年 3 月 13 日【表敬訪問】在ロサンゼルス日
本国総領事館 首席領事 青島 尚重 氏



2025 年 3 月 13 日【視察】
ジャパン・ハウス ロサンゼルス



2025 年 3 月 14 日【学校交流】
クレアモント・カレッジズ



2025 年 3 月 15 日【視察】
マンザナー国定史跡



2025 年 3 月 16 日【視察】リトル・トーキョー



2025 年 3 月 16 日【ワークショップ】

	
2025 年 3 月 17 日【学校交流】 ロヨラ・メリーマウント大学	2025 年 3 月 17 日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

今回派遣プログラムに参加させていただき、東京と宮城への招へいプログラムの参加者と再会することができてとても嬉しく思いました。多くの友人と国境を越えて知り合うことができ、今後もこの友情を大切にしたいと思います。

◆ 大学生

カケハシ・プロジェクトへ参加したことでしか得られなかった体験が沢山あり、数えきれないほどの学びがありました。今後はカケハシ・プロジェクトの参加者という経歴を生かして、体験を広く伝えて、日本と米国の架け橋として両国をつないでいきたいと思っています。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

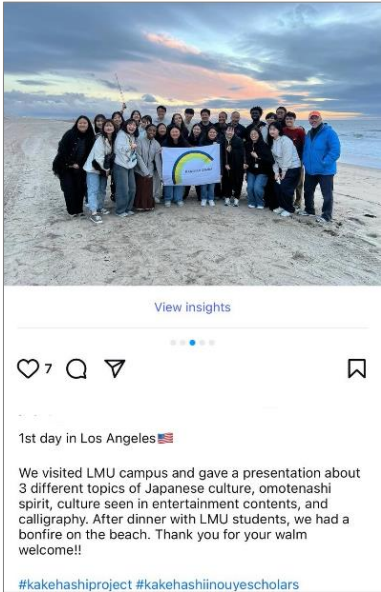
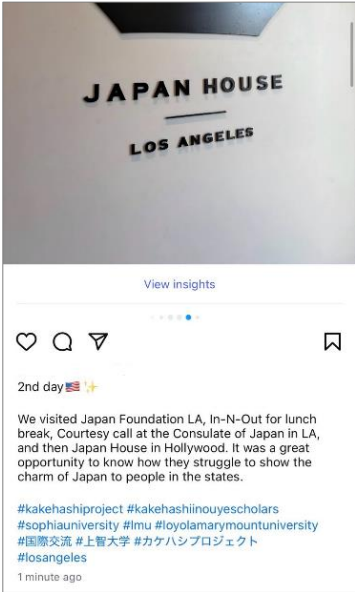
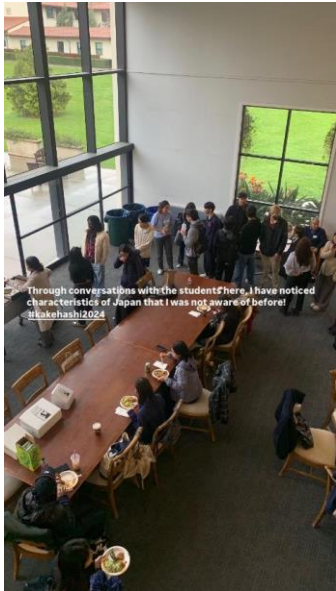
◆ 交流校生徒

お互いの国を行き来して交流を深めることができ、貴重な機会になりました。多くの時間を一緒に行動して過ごし、忘れられない思い出になったと思います。いつでも連絡を取ることができるので、これからも友人としての関係を大切にしていきたいと思っています。

◆ 交流校関係者

自分の大学が 2 年連続で上智大学と交流することができると聞き、驚きましたが大変喜ばしく思いました。学生にとってはとても貴重な経験になりますので、可能であれば今後もこのようなプログラムに参加して、交流をさらに深めていくことができればと思います。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2025 年 3 月 16 日（Instagram） 私たちは LMU のキャンパスを訪れ、日本文化とおもてなしの心、エンターテインメントのコンテンツに見られる文化、書道という 3 つのトピックについて発表を行いました。夕食後には LMU の学生とビーチでたき火を行いました。温かく歓迎してくださりありがとうございます！	2025 年 3 月 17 日（Instagram） 国際交流基金ロサンゼルス、昼食に In-N-Out バーガー、在ロサンゼルス日本国総領事館への表敬訪問、そしてハリウッドにあるジャパン・ハウスを訪問しました。米国の方々に日本の魅力を伝えるための取り組みを知る、素晴らしい機会となりました。
	
2025 年 3 月 14 日（Instagram） クレアモント・カレッジズの学生との交流を通じて、これまで気づいていなかった日本の特徴に目を向けることができました。	2025 年 3 月 15 日（Instagram） 1942 年に 11 万人以上の日系米国人が米国政府によって自宅を離れることを強制されました。そのような苦境にあっても、日系米国人の人々は自分達の能力を生かして何とか幸せに暮らそうとしま

した。

6. 報告会での訪米成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 3 グループ発表

グループ A

Action Plan Presentation Kakehashi Inouye Scholar Program  Group A March 2023	Finding - Both Manzanar and Little Tokyo highlight the deep significance of <i>Home and Identity</i> - Despite historical hardships, Japanese-Americans have found ways to preserve their culture and a sense of belonging - Understanding these struggles offers valuable insights into how identity is shaped by history and place 	FIND SOPHIA - Contribute to campus media "FIND SOPHIA" - Effective communication with a wide range of generations, including not only university-related people but also junior high school and high school students Open Campus - As part of the student-teacher collaboration club activities to which Shano belongs, we will exhibit what we have learned through the Kakehashi Project during the open campus.	Presentation in High School - share what we learned through the program - give them a motivation to experience/respect the different cultures Presentation at Botton - Share experience on Manzanar and Little Tokyo - Promote discussions on home and identity → Aim to create a place for discussion, encouraging members to think about their own connections to identity and culture.
---	--	---	--

【成果の発表】

外交は、外交官や政府関係者だけでなく一般の人でもでき、そのような草の根の外交がとても大きな意味を持っているということ、また、それぞれの民族にはコミュニティがあり、それが人のつながりを強めていることがわかりました。

【アクション・プラン】

8 月までに、学内のメディアに自分達の経験を掲載してもらうとともに、今後開催されるオープンキャンパスでも自分たちの経験を発表して来学する人たちに伝えます。また自分達の出身高校でも今回の学びについてのプレゼンテーションを行います。

グループ B

 Final debriefing Group B	Learning Break free from our own way of thinking by talking with others from various backgrounds	Action Plans Increase the budget for government exchange programmes ↓ Expand the number of participants and a holistic learning effect 
---	---	---

【成果の発表】

今回のプログラムでは、多くの人との対話を通じて、日本について知ってもらおうと努力している人や異なるバックグラウンド同士で理解しようとしている人達がいることを知りました。また日系米国人の苦難やその環境の中で懸命に努力したことも学びました。

【アクション・プラン】

カケハシ・プロジェクトのための予算が今後も維持されるよう、国会に働きかけるための嘆願を行います。まず 1 か月以内に本プロジェクトに現状で措置されている予算を調査し、支援者を募り、3 か月以内に実際の嘆願を実施します。

グループC



【成果の発表】

日本と米国では歴史教育の教え方が違うため、歴史認識に違いが生じることを知りました。また、ロサンゼルスには日本文化を伝えるための施設や場所が数多くあり、それらが日本文化を伝える役割を担っていると知りました。

【アクション・プラン】

来年度の春学期中に、学内で教員や学生を対象とした、今回のプログラムの学びや気づきについて発表を行い、プログラムの成果を沢山の人の人に知らせたいと思います。学内のサイネージ等で情報を流し、多くの人に来てもらえるようにします。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）